

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和元年 5月 7日 (火)

2 確認箇所

- ・ 5・6号機サプレッションプール水サージタンク脇
- ・ T. P. 2. 5m盤 (海側遮水壁近傍)

3 確認項目

- (1) 海側ヤードに保管されているドラム缶の状況
- (2) メガフロート移設工事の進捗状況

4 確認結果の概要

(1) 海側ヤードに保管されているドラム缶の状況確認

東北地方太平洋沖地震で発生した津波により、重油タンク及び関連配管が損壊し、重油が流出したことから、流出した重油の一部を海水と共に回収し、ドラム缶を用いて物揚場付近で保管していた。

その後、ドラム缶内の上澄みとなった重油については、別途回収し、危険物置場への移送が完了したが、残った海水と沈殿物は現在も物揚場付近で保管されていることから、現況を確認した。

- ・ドラム缶は約300本保管されており、シートで養生されていた。(写真1)
- ・東京電力によると今後、ドラム缶内の内容物を処理する予定とのことであった。



(写真1)

(2) メガフロート移設工事の進捗状況の確認

1～4号機取水路開渠内では、メガフロート^{*1}を移動するにあたり海側遮水壁を保護するための防衝盛土^{*2}設置工事を平成30年11月12日から着手していた。平成31年4月24日に防衝盛土設置工事が完了したことから、海側遮水壁付近の現況を確認した。

- ・目視では海水面に濁り等の異常は確認されなかった。(写真2)

・現場確認時はメガフロート移動の準備作業が物揚場付近で行われていた
(写真3)

※1「メガフロート」：東日本大震災により発生した5/6号機建屋の滞留水を一時貯留するために用いていた設備であり、現在は使用されていない。津波漂流物となり周辺設備を損傷させるリスクがあることから、1～4号機取水路開渠内に移設し着底させる計画となっている。

※2「防衛盛土」：メガフロートの移動時等にメガフロートの接触により海側遮水壁が損傷しないように、盛土材(捨石)を海面上まで盛り立てていくもの。



(写真2-1)

1～4号機取水路開渠内
(南側)



(写真2-2)

1～4号機取水路開渠内
(北側)



(写真3)

物揚場付近に係留されているメガフロート

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。